


# 平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

### 道府県・政令市名【京都市】

1 実践テーマ	【 I III V 】
2 実施対象者	京都市立日吉ヶ丘高等学校 全校生徒数713名 第2学年（男子74名・女子165名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( ) ② 行事名 (保健人権学習) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車いす体験や交流試合、選手たちとの対話を通じて障がい者に対する理解を深め、人権意識を高めて、自分の生き方を考える機会とする。</li> <li>・社会がどう変われば障がいのある人々が住みやすくなるかを考える機会とする。</li> <li>・車いすバスケットボール競技を通して、2020年オリンピック・パラリンピックへの関心を高める機会とする。</li> </ul>
5 取組内容	<p>1 事前学習</p> <p>(1) 事前アンケート・体験生徒及び介助生徒の選出</p> <p>(2) テレビ番組「めざせ2020年のパラリンピアン」の鑑賞 車いすバスケットボールのパラリンピック日本代表選手で、生徒たちと同年代である大学生の鳥海連志選手のドキュメンタリー映像を視聴と人権学習のために実施した事前アンケート結果を踏まえ、障がいや障がい者スポーツへの理解を深めました。(12月12日LHR)</p> <p>(3) 介助生徒のオリエンテーション</p> <p>2 車いすバスケットボール体験(12月18日)</p> <p>(1) 選手紹介・競技説明・模範演技 車いすバスケットボールの競技としての特性や練習・試合方法などを実際のプレイを見ながら学習しました。</p> <p>(2) 車いす体験(クラス対抗試合) 生徒代表による車いすバスケットの試合をしました。なかなか思うように動けずパスミスやシュートミスが多いのですが、なかにはかなりいい動きをする生徒もいました。予定外の先生チームもでき、生徒と試合も行いました。</p> <p>(3) 選手代表の体験談・質疑応答 選手のお話を全員で聞いた。病気や怪我の経験、車いすバスケットボールとの出会い、生徒たちへのメッセージ等、生徒たちはとても感銘を受けた様子でした。</p> <p>(4) 生徒代表からのお礼の言葉</p>

	<p>3 事後学習 講演後の感想文と事前アンケートをもとにもう一度考える。 (1月9日LHR)</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p>事前アンケートでは、障がい者スポーツに興味がある110人、興味がない102人でした。体験や貴重な体験談を通して、車いすバスケットボールを知りました。知ること、見ること、感じることで、生徒自身も変わっていくことに気付いてくれることが分かりました。</p> <p>生徒の感想文の中から、いくつかを要約して紹介します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本ではバリアフリー対策などをしていても、人々の意識は低いなと思ったのでこれから自分の意識を変えていきたい。</li> <li>・障害者スポーツに興味はなかったけどプレーや、話などを聞いてとても楽しそうに興味を持ちました。</li> <li>・車いす用のトイレを本当に使いたいと思っている人が困るということを知って、そんなことに気づけなかったことが人として恥ずかしいなと思いました。</li> <li>・パラ競技には興味を持っており、授業（総合的な学習の時間）でユニバーサルツーリズムのことも学んでいたため、車いすバスケットボール内容までしれてよかった。</li> <li>・2020年に実施される、パラ競技他の競技も観たいと思った。</li> </ul>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>本校の取組み、SGH アソシエイト校としての課題研究テーマの一つである「2020東京オリンピック・パラリンピック」において、バリアフリーをキーワードに自分たちがどう関わることができるか、どう考えることができるかをもとに、8月に東京フィールドワークを行いました。渋谷駅周辺のバリアフリーを見つけ、それが一体誰にとってどのような視点でバリアフリーになっているのかをみんなで共有し、誰もが楽しめるユニバーサルツーリズムの観点から京都での新しいツアープランを企画する取組み（総合的な学習の時間ゼミ活動）を学習し、オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業につなげました。</p>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者理解や共生社会の形成の意識を高めるため、継続した取組が必要である。</li> <li>・競技用車いすを借りる場合の、他校との日程調整や運送費用の問題である。</li> </ul>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>本校の取組み（保健人権学習）は、一過性の取組みではなく、積み上げ継続することが、大切であると考えている。</p>